

①開基百年記念塔／北方記念館／北方植物園



昭和53年7月、稚内の「開基百年」と市制施行30年を記念して建設。1・2階には北方記念館(郷土資料館)があり、展望台からは360度の大パノラマを楽しめます。また、すぐ隣には「NPO法人稚内山野草同好会」手作りの「稚内市北方植物園」があり、最北の貴重な植物や多彩な石造り庭園を楽しむことができます。

百年記念塔は6月～9月までの間、21時まで開館しています。夜景もお楽しみいただけます。(18時以降は入場料が半額になります！大人400円→200円、小中学生200円→100円)

②風車とエコ足湯

風力発電を利用したエコ足湯が「ゲストハウス氷雪」の中にあります。歩き疲れたらエコ足湯でのんびり癒されましょう。

③文芸の小径

市民や市にゆかりのある方の俳句や短歌、川柳の句碑が立ち並んでいます。どれも稚内への想いが詰まった作品ばかりです。

④南極観測樺太犬訓練記念碑
⑤樺太犬供養塔



日本が初めて南極観測に参加するにあたり、極地の物資輸送に選ばれたのが犬ぞりでした。犬ぞり隊は稚内公園で厳しい訓練を受け、越冬隊とともに南極に出発し大活躍。その功績を称え記念碑が建立されました。この記念碑の隣には南極で亡くなった犬達の霊を慰める「樺太犬供養塔」があります。

⑥氷雪の門



正式名称は「樺太島民慰霊碑」といいます。かえらぬ樺太への望郷の念と、樺太で亡くなった人々の慰霊のために建立されました。雪と氷の中で厳しく生き抜き、敗戦の失意から再びたくましく立ち上がった人々を象徴しています。

⑦九人の乙女の碑



昭和20年8月20日、終戦5日後に戦場と化した樺太の真岡(現:ホルムスク)の町で、郵便局で電話交換業務を終えた後「皆さん、これが最後です。さようなら、さようなら…」の言葉を残し自ら若い命を絶った9人の女性の霊を慰めるために建てられました。

そっだ！ 晴れたら行ってみよう！

稚内公園 ～魅力再発見～

晴れた日にはサハリンの島影も…

わっかない育みの里「パノラマコース」へ

市街地の背後の丘陵地帯が散策路となっているのが「わっかない育みの里」です。自然学習や健康増進に最適です。(一部立入禁止となっているコースがあります。)

⑨森林公園



市民によって植樹されたエゾヤマザクラをはじめ、ガイマツ、アカエゾマツなど道北ならではの木々が生育しています。遊歩道やキャンプ場も整備されています。

⑩遊具



子どもたちが遊べる遊具もありますよ。

古くから市民の皆さんの憩いの場として親しまれてきた稚内公園。

様々な歴史を物語るモニュメントの数々、季節ごとに美しく咲く花々、晴れている日に見られるサハリンの島影、文化に触れられる散策路など、稚内公園にはたくさんの魅力が詰まっています。

散歩コースとしても最適で、ウォーキングされている方もよく見かけます。

天気の良い日はご家族やご友人などと一緒に青空の下に出かけてみませんか？

きっと稚内公園の魅力を再発見できますよ。

⑪桜



以前は標本木(開花の基準となる桜の木)にもなっていた稚内公園のエゾヤマザクラ。例年5月に入ると稚内にも桜の便りが届き、訪れた人の目を楽しませてくれます。

⑫短歌の道

北門神社裏の登り口から氷雪の門に通じる遊歩道は散歩コースとしておすすめです。全長約500メートルで「短歌の道」の由来である市内短歌愛好家の皆さんの歌碑が沿道に建てられています。

路面はウッドチップで足にも優しく、途中、ベンチやあずまやなどで、ゆっくりのんびり一休みしながら散策を楽しむことができます。



⑧光る遊歩道



氷雪の門の前と北方記念館前の展望台までの遊歩道は夜になると埋められた石が淡く輝き、幻想的な世界が広がります。